

合同検討委員会ニュース

【鳴子温泉地域版】第3号 2022年2月発行

未来を担う子どもたちへ ―教育環境の充実を目指して―

編集発行：学校教育環境整備推進室

問合せ先：大崎市教育委員会 教育総務課

TEL：72-5032 FAX：72-4004

メール：ed-soumu@city.osaki.miyagi.jp

第3回合同検討委員会が開催されました

小学校・中学校の統合に関する第3回鳴子温泉地域合同検討委員会が、令和4年1月17日（月）鳴子公民館で開催されました。今回は、「小中一貫校」なのか「小学校のみの統合なのか」について、各委員の皆様からご意見をいただきましたが、小学校のみとする場合の活用校舎を「鳴子小学校」とする案が出され、その案も含め協議を継続することとなりました。

第3回当日の資料や委員の皆様の見解などを、以下の紙面に集約して皆様にお知らせ致します。

主な資料の説明

1 「小学校のみで統合」と「小中学校で統合」の○メリットと●デメリットについて ＜小学校のみで統合の場合＞

- 利用校舎は「川渡小学校」を考えている。児童数の推移を見ると、令和7年に統合した場合、児童数は97名になる。従って、現存の「川渡小学校」の校舎をそのまま利用することが可能である。
- 令和8年度から「複式学級」の対象となるが、特例加配がある場合は複式を解消することができる。
- 児童館、公民館等の施設が近くにあり、移動距離が短い。
- 児童数の減少は回避することができず、現在予測可能な令和9年度で70名、その後も移住・定住等がない限り、更に減少することが予想されます。
- 校舎、体育館共に築年数が経過しているが、国の補助を受けられるのが令和9年度以降であり、「市全体の学校施設長寿命化計画」に基づいての工事になる。その際も、同規模の学校の状況を参考にすると、校舎で4～5億、体育館で3億ほどかかる見込みのため、改修実施後、数年で中学校と統合する事は難しくなります。

＜小中学校で統合の場合＞

- 利用校舎は「鳴子中学校」。若干の改修が必要だが、1～9年生まで一つの校舎で学ぶことができる。平成18築で、校舎も体育館もきれいである。
- 子ども達の理解の程度や9年間の指導内容の系統性を考えて、指導する時期や指導時数を柔軟に考えることができるなど、子ども達の実態に合わせた効果的な教育課程を組むことが可能になる。
- 1～9年生までの児童生徒がいることにより、思いやりの心や規範意識の醸成など、異学年交流による精神的な発達や社会性の育成が期待できる。
- 児童生徒数の減少は回避することができず、現在予測可能な令和9年度で142名（小学生70名、中学生72名）となり、その後も移住・定住等がない限り、更に減少することが予想されます。
- 校庭は広く、十分な広さはあるが、校舎西側にあり、職員室から校庭の様子を見ることができない。
- 児童館、公民館等の施設が離れており、児童館・学童保育の施設までの移動方法の検討が必要。
- 小学校卒業の達成感がない。また、人間関係が固定化しやすい。

＜鳴子温泉地域統合準備委員会について＞

- ・鳴子温泉地域の児童生徒数の推移について、令和3年時点で予測可能な令和9年度までの児童生徒数の推移について説明した。
- ・改めて、鳴子温泉地域学校統合準備委員会の設立とメンバーについて、また各部会の役割について説明した。
- ・参考までに「古川西部地区学校統合全体スケジュール」を提示した。

2 主な質問や意見 ○はご意見とご質問 ⇒は教育委員会の回答

<資料の説明に関して>

- 人数の推移を見ると中学校でも複式になるのでは？将来的には中学校の統合もあるのか。
⇒現状把握できる人数では、中学校の複式はありません。また現時点で中学校の統合は考えていない。小中一貫という枠組みで統合すれば、児童生徒数が減少しても、小中一貫で学校を残すという可能性が高い。
- 川渡小学校のトイレ、廊下等の整備は考えてないのか。大崎市の教育予算は適切に使われているのか。
⇒経年劣化等の修繕については、通常の学校管理経費での対応として考えており、統合校舎となることを理由とした整備は考えていない。教育予算の多くを占めているのが「教育支援員」「スクールサポートスタッフ」等の人件費です。トイレ等の修繕は、大規模改修と併せたタイミングと考えています。
- 児童館、学童について、担当課と協議・調整となっているが、もっと具体的な説明をお願いしたい。
⇒児童館及び学童の担当課は子育て支援課となります。川渡児童館で他地域の子どもたちを預かれるのかどうかなど協議が必要となります。また、小中統合となった場合、鳴子中学校から児童館までの距離があるため、スクールバスの担当課である学校教育課との協議となります。詳細な部分については準備委員会を立ち上げてからになることをご理解ください。
- 建物の新旧で言えば、川渡小より鳴子小の方が新しい。鳴子小なら整備をもう少し付けてもらえるのでは。
⇒鳴子小活用案は、スクールバスの通行が困難ということで、小学校のみの統合とした場合の想定を川渡小学校とした経緯があります。

<「小学校統合」か「小中一貫」か？>

- 児童生徒数の推移をみると小中での統合を認めざるを得ないと思うが、6年生のリーダーシップを醸成するような取組を是非お願いしたい。
- 統合は仕方がない。当初、小中一貫がよいのではと思っていたが、保護者の立場からすると小中は分けた方がよいと考えている。場所は、比較的新しく、通行上、事故や不便もないことから鳴小の活用を検討して。
- 玉造の子ども達の体力が落ちている一因はスクールバス。川渡小は修繕しながらといっても無理があるのでは。長い目で見た時には鳴子中になるかと。現時点での判断は難しい。
- 地域が望めば児童が1人でも学校は存続。木の温もりのある素敵な学校を。場所はどことは言わない。
- 小中一貫校で、学校にいる間だけでも上下関係を築けるようにするのも教育では。そういった学校運営を。
- 小中一貫で。人間関係の固定化などの問題もあるが、今後の準備委員会でそれが解消されるような話し合いを。監視カメラの話があったが、生の目で子どもたちの遊ぶ様子を見ることができる環境は大切だと思う。
- 鳴小はスクールバスが入れないという話があったが、小学校のみであれば、今のバス会社の話も聞いて、冬場の運行がどこまで厳しいのか確認し、検討してから川渡にという話を。もう少し考えたい。
- 当初は小中の統合で考えていたが、鳴小だと親としては助かるし考えていただけたらうれしい。
- 監視カメラに疑問があり、小中一貫であれば、やはり生の目で見守れる環境が必要だ。
- 学力の向上を目指し、先生を多く配置できる義務教育学校で一生懸命勉強できる環境を整えてほしい。
- 鳴小という考えも聞いて、非常に揺れている。今の状況ではどちらという判断ができない。
- 早急に小中一貫の統合を。川小では余りに老朽化が進んでいるし、児童数の推移を考えると小のみの統合はありえない。統合を機に職員室をグラウンド側に移す等の智慧を出してすばらしい学校にしてほしい。
- 現段階では一貫校にしる小学校のみの統合にしる、どうなっても仕方がないという条件でお願いするとしか言えない。
- 今、ここでどちらかを選択ということはできない。小中一貫は将来のことも考えての案ということ。対処法だけで終わることなく、自治体としての政策を持って進んでほしい。
- 小学校の統合で。鳴中に小学校用のプールを作るのか。学童保育は中学校に入れるのか。川小に統合して、地域全体の子どもたちの生活、過ごす時間を大事にしたい。
- 中学校を活用するには課題が多い。子どもたちが休み時間に遊ぶ姿もないし、昇降口から校庭までが遠い。学童の問題もあると思う。
- 一つひとつ問題を解決していく部分になる。やはり学童が必要で、移動手段の確保等の検討をお願いしたい。判断は鳴小も含めた3案からになると思う。
⇒全員の意見が一つにまとまるというのは難しいかもしれないが、教育委員会としては今日いただいた意見を参考にして、次回、もう少し具体的なものをお示しするようにしたい。